

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000426	事業の開始年月日	平成25年2月1日	
		指定年月日	平成25年2月1日	
法人名	シニアウイル株式会社			
事業所名	ウイル原宿ステーション			
所在地	(〒244-0063) 神奈川県横浜市戸塚区原宿4-44-28			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	9名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年12月6日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月3日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・施設は国道からすぐの住宅街にあります。日中過ごすフロアは隣が畑で明るく開放感があり季節を感じることができます。ご利用者様には通い・訪問・泊まりを柔軟に組み合わせたサービス提供を行っています。ご本人が慣れ親しむ地域で現在の生活を安心して過ごしていただけるサービス提供を行います。通いでは外出レク、週2回の音楽療法士による音楽、リハビリ体操、口腔体操ゲーム、塗り絵、みんなで行う脳トレなど日々意向に沿った支援を行います。個別支援を心がけ他施設や他職種との連携を行いチームで支援できる体制の構築を目指します。必要に応じ日中3回の訪問を行うことでご利用者様の安否確認や食事、服薬、バイタルチェック等行い体調管理に努め安心して生活を出来るようサポートしています。</p>
--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年12月20日	評価機関 評価決定日	平成27年1月9日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇「通い、訪問、泊りサービス」への柔軟な対応                  利用者の体調や家族の予定に合わせてサービス時間を短縮・延長し、訪問による安否確認や通院、買物、急な泊りにも対応している。                  利用者の要望による墓参りや友だちとの会合への支援など、サービス全般に柔軟に対応し家族からも喜ばれている。                  ◇利用者情報の業務日誌・個人ファイルへの記載による職員間の情報共有                  利用者の毎日の過ごし方や心身の状態、希望や意向は業務日誌と個人ファイルに詳細に記載することにより、職員間で利用者一人ひとりの情報を共有している。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b>                  ◇利用者を楽しませる多彩な支援                  午前中はぬり絵やパズル、折り紙などそれぞれが好きなことをして過ごし、午後のレクリエーションの時間には、音楽療法士による音楽、リハビリ体操、ゲーム、パズル、脳トレなど、毎日工夫した支援を行っている。                  又、利用者が職員と一緒におやつを作って食べる「おやつレク」を毎月行い、吊るし雛やお花見見物など季節ごとにドライブで「外出レク」も楽しんでいる。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ウイル原宿ステーション
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念を掲示し、理解して、日々の業務に活かしている。</li> <li>・実践に繋がる努力をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一人ひとりの生活を大切に、家族との協力関係を大切に、地域のつながりを大切に」との理念を玄関に掲示している。</li> <li>・職員は利用者がこれまでの生活を継続できるよう、家族と協力して理念の実践に努めている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩・近郊の外出を通じ、地域の方に積極的に挨拶するなどコミュニケーションを図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会に加入し、散歩や外出時に地域の人に挨拶し、地域との関わりを持つように努めている。</li> <li>・毎月、歌のボランティアが訪問し、利用者と一緒に歌っている。</li> <li>・地域の神社に初詣をし、近隣幼稚園の運動会にも出かけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の夏祭りなどの行事に地域の人に声掛けし参加を求め、地元の行事や活動に積極的に参加することにより、地域とのつながりが一層深まることが期待されます。</li> </ul>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議を開き、話し合いの場を設けている。</li> </ul>		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か月に一度運営推進会議を行っている。委員からの意見助言など反映させている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か月ごとに利用者・家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て実施している。</li> <li>・参加者から地震・雪害時の対策状況について意見があり、災害用備蓄品の管理の徹底を図り、災害対策について検討している。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模連絡会・戸塚区ケアマネジャー連絡会へ継続の参加を行い市・区担当者との情報交換に努めている。また、生活状況の困難であるケースでは、区、地域包括とチームケアを行い情報共有を行っている。施設の取組みや状況を伝える。常に連絡を取り協力関係を築くよう取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区担当課とは事業所の取組み状況を説明し、相談に乗ってもらっている。市および区の小規模多機能連絡会に参加して、担当者との情報交換に努めている。</li> <li>・地域包括支援センターとは研修に参加したり、利用者情報をもらい、協力関係を築いている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新人教育では管理者がマニュアルを用いて説明を行い職員への周知を行っている。	・「身体拘束排除に関するマニュアル」に基づき、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・管理者がマニュアルで新人研修を行い、職員には年1回、研修を実施している。玄関の鍵は日中開錠し、泊りの居室は夜間も開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・更衣入浴時などチェックを必ず行っており、原因不明な痣等見られたときは管理者に報告を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度を利用しているご利用者もおおり、後見人との話し合いの場を持つなど情報提供の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書を用いて十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご利用者様の要望など日々の会話の中からも聞き取るよう努めている。ご家族の要望は訪問時や職員との会話の中からも聞き取るよう努めている。ご利用者様・ご家族の要望を叶えられるよう支援計画を立てている。	・利用者の要望は日々の会話の中から聞き出し、家族の要望は送迎時やケアマネージャーが訪問時に聞き出すよう努めている。 ・家族からの排泄やオムツの相談には助言し、利用者によっては、通所時に可能なリハビリを先生の指示のもと行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月行われる会議では意見提案ができ、小さな疑問等常に話を聞ける環境が出来ている。	・毎月の全体会議やサブリーダー会議で職員の意見・提案を聴いている。また、管理者が毎年、職員面談で意見を聞く機会を設けている。 ・利用者の希望する制作の提案や居室のベットに呼び鈴を置くなどの職員の提案を取入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・働きやすい環境を作るよう努めている。年度末には次年度に向け個々目標を立て達成できるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・三か月ほどは新人教育があり不明な点はすぐに質問できるようになっている。外部研修を受ける機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・ケアマネ勉強会やあ小規模連絡会などに参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご利用者様の話を傾聴し・コミュニケーションを図り、情報を把握しながら早い段階で信頼関係を作れるよう努力を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・サービス開始前よりご利用者様・ご家族の不安や希望などを聞き、十分な説明を行い、相談しながら不安なく利用できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご利用者様、ご家族に対し十分なモニタリングを行いニーズに合ったサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご利用者・ご家族の意見を尊重しつつサポートを行っている。出来る事、出来ないことを見極め出来ることをなるべくしていただくよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ケアの方法を提案したり協力を求めたりしている。ご利用者様・ご家族の関係を第一に考え支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	・サービス利用時に近隣の方やなじみの方が面会に来ている。希望のあった場所への外出も支援している。	・利用者のこれまでの経歴や生活歴については、本人及び家族からの情報により把握している。 ・近隣の方や親戚の面会は時間を問わず面会できるようにし、お墓詣りや行きつけの美容院などに同行して、関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・楽しく過ごせるよう配席などはその都度変更している。職員がご利用者様同士のいい関係を作れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・施設に入所、サービスをご利用になったご利用者様のご家族の相談に乗るなどサポート体制は整っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ケアプランにご利用者様の希望・意向等の記載があるので参考になっている。ご利用者様とコミュニケーションを図りつつご利用者様の希望を理解するよう努めている。ミニカンファや全体会議などで意見を出し合い1人1人の把握に努めている。	・利用者の思いは日頃のコミュニケーションを通し把握に努め、アセスメント時に本人・家族の要望を確認している。 ・把握した利用者の思い・意向は申し送り業務日誌及び個人ファイルにも記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・これまでの生活歴は家族からの情報提供などにより個人ファイルに記載把握できるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・体調、発言などに注意を払い業務日誌・個人ファイル申し送り等で把握できている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・全体会議やサブリーダー会議で問題点などがあれば話し合っている。ご利用者様やご家族の意見があれば反映するようになっている。	・利用者・家族の意見やアセスメント情報を基に、職員会議で話し合い、計画を作成している。 ・利用者の状態が変化した場合や家族の要望には、その都度検討し見直している。毎月、ケアマネージャが本人宅を訪問しモニタリング結果を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別ファイルに日々の様子を記録しており全スタッフが情報を共有できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・状況に変化が会った時は管理者に報告している。緊急時の対応などでは支援を組み替えながら行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通院、買い物等個々のニーズに合わせた支援を行なっている。担当民生委員の見守りや近隣商店の、個々馴染みの関係性を生かした地域の力を大切に支援を行なっている。本人の持てる能力を低下させないよう対応を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族と協力、連携しかかりつけ医への受診を行っている。	・利用者は、かかりつけ医の受診また訪問診療を受けている方もいる。 ・通院は家族の付添いを基本とし、付添困難なケースでは、同行支援し、診察結果を家族に伝えている。 ・週1回、看護職員が利用者の健康チェックをしている。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常の関わりの中で気づいた状態を報告している。ご利用者様に変化があったときは看護師に情報提供・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・ご利用者様にこの状況把握の為ムンテラや、カンファには積極的に参加している。また、相談員・ワーカーと密に連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との綿密な打ち合わせを行ない意向を受け取る。家族ができること、施設ができることを明らかにする。主治医からの指示を基に職員を中心に支援方法を職員間で検討、対応策や方針を決定し支援を行ない体制を整える。	・本人・家族の意向に添いサービス開始時より終末期のあり方について相談を受けている。 ・重度化の段階ごとに、できることを家族と話し合い、主治医の指示を基に方針を共有している。 ・ターミナルケアについて、職員研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時のマニュアルがある。急変や事故発生時は管理者へ連絡することを徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を定期的に行い慌てずに職員が対応できるよう努めている。	・夜間想定訓練を含み、年2回避難訓練を実施している。地元消防署立会での消火訓練では、AEDを使っでの救命法を実施している。 ・災害対策用に、3日分の水、食料のほか、カセットコンロなどを備蓄している。	・夜間の災害など職員だけの限界を踏まえ、地元の人の協力を得て一緒に訓練を実施していく協力体制作りが望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入浴トイレ更衣などプライバシーの確保には努めている。どの方にも同じように、人格や誇りを損ねない言葉かけにも常に気を配っている。	・利用者には常に敬語を心掛け、人格を尊重し、誇りを傷つけないような対応や言葉かけをしている。 ・職員はプライバシー保護、接遇の研修を受け、いつでも確認できるように、マニュアルが事務所内に完備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・思いや希望を言えるよう日頃からの関わりから自己決定出来るようにしている。レクリエーション等参加の有無も確認するなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご利用者様の状況に応じて、支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・入浴後の整容はご利用者様に伺いながら行っている。洋服を選んでいたり、男性には髭剃りを進めるなど身だしなみに気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・どうしても食べられないものは抜いたり代替えを提供している。季節のものが出た時は話題にし食事を楽しく召し上がれるよう心掛けている。食事前のテーブル拭きなどを手伝っていただくなどしている。	・食事中は静かな音楽をかけ、職員が声掛け・介助しながら支援している。テーブル拭きなど出来ることはしてもらい、個人の力を活かせるようにしている。 ・利用者の希望を聞きながら、職員と一緒に毎月「おやつレク」を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ソフト食、治療食も行っている。刻み、ミキサー食など状態に応じた食事を提供している。食べる量で個々の摂取量を把握している。栄養や水分制限のある方には表を作成し全スタッフが把握している。また水分摂取量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアを行い口腔清潔が保たれている。その方の状態・能力に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・尿意のある方はご利用者様の行きたいときに付き添いを行っている。訴えが無い方には定時声掛けをし誘導し、その方にあった排泄方法を考え失敗が少なくなるよう支援している。	・排泄チェック表でパターンを把握し、様子を観察しながら利用者に合わせて誘導を行っている。 ・家での状況も確認し、失敗しても自尊心を傷つけないように気づかいながら、おむつからリハパンへと自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・一人一人の排泄パターン知り援助している。便秘の方に対し個別にヨーグルトを提供したり水分摂取を多くしたりして対応している。腹圧がかかるような体制を提案したり、又ご自分出できることは行っていたくよう見守りを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・出来るだけご利用者様の意向に沿った時間に入浴のお誘いをしている。転倒や体調に気を配りながら行っている。皮膚状態の関係で毎日入浴が必要な方の対応も行っている。	・利用者のタイミングに合わせて、シャワーや湯温の希望を聞きながら職員と1対1で入浴している。 ・楽しい入浴になるように足湯や季節感のあるゆず湯なども取り入れている。入浴を好まない方にも言葉かけで誘導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・安心して休めるよう居室の環境整備を行い、音、光など不快にならないよう配慮している。生活習慣や体調にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人ファイルに内服薬の処方箋情報があり、いつでも見ることが出来る。服薬時は2人体制で行い名前、日付等をチェックし飲み込むまでの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・手作業、レクリエーション、散歩など楽しみや役割があるよう支援している。また洗濯物干しやたたむなどの作業が出来る方は職員と一緒に取り組んでいる。出来る事、楽しんでいただけることを見つめながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・気分転換に散歩をしたりご利用者様の希望で自宅近くまで帰ったりすることもある。ご家族や地域の方の協力も得られている。	・利用者の希望に合わせて買い物に出かけたり、天気の良い日は近隣の自然が感じられる場所へ散歩に行っている。 ・行事の中に外出レクを取入れ、初詣や季節ごとに桜、梅、アジサイを見にドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがある時は本人の希望に沿った行きつけの店や、希望する店での買い物同行支援を行なっている。買い物の中身やレジでの支払いなどの見守りを行なっている。買い物にも企画実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族から電話連絡があった時やご利用様が電話を掛けたいと言った時は連絡を取ることが出来る。また、携帯電話をもってきている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節が感じられるよう花を飾ったり季節のクラフトやご利用者の作ったカレンダー、作品など飾って過ごしやすい雰囲気になっている。共有物品は汚れていれればすぐ掃除をするなど清潔を維持している。	・日当たりの良いリビングは明るく、窓からは利用者と職員が植えた花や野菜が見える。 ・壁には利用者がレクで作った季節感のあるクラフトが飾られている。テーブルと椅子のほかにくつろげるようにソファベッドもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ご利用者様1人1人のお気に入りの場所を把握し配置に気を配ったり気の合ったご利用者様同士楽しめるテーブル配置をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・環境整備をし心地よく過ごせるよう整備している。希望によりテレビを置くなどしている。	・居室は洋室のほかに畳の部屋もあり、職員手作りの衣類ケースが置いてある。 ・枕など使い慣れたものや好みのものを持参することも可能で、利用者の希望に合わせてテレビ、ラジオや時計などを用意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ご利用者様の残存能力を活かしつつ、出来ることはご利用者様にやってもらっている。片麻痺の方のベットや柵の位置など移動がしやすいよう配置に気を付けている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ウイル原宿ステーション

作成日 平成27年1月29日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所の行事に地域の方に参加の声を掛け、また地元の行事や活動に参加して地域との繋がりを持つ。	小規模多機能の取り組みを地域の方に知っていただき、認知度を高めて地域の資源となる。	運営推進会議を通じて町内会、近隣に声掛けの協力をいただき、地元の行事にも積極的に参加する。	1年間
2	35	夜間の災害など、地元の方の協力を得て一緒に訓練を実施していく協力体制作る。	マニュアルに沿って実施する。	夜間想定では近隣スタッフが声掛けしながら施設に来る。細かく記載したマニュアルを作成して実施する 近所の方には、外に出た利用者の見守りを願います。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。